

園 学校だより

令和元年 9月20日
横浜市立原中学校
校長 関 宣也
tel 391-0461

No. 5

秋の空 露をためたる 青さかな 正岡子規

関宣也

今年の夏も全国的に記録的な猛暑の日が続きました。部活動やボランティアなどの活動中に熱中症で倒れる生徒が続出するのではないかと心配しましたが、幸い大きな病気やケガ、事件・事故の報告はありませんでした。こうして無事夏休みを終えることができたのは、一人一人が自分の行動に責任を持って生活できたからなのでしょうが、何といても、保護者の皆さまのきめ細かな健康管理、地域の方の温かい見守りのおかげだと思っております。ありがとうございます。また、先日のゲリラ豪雨、観測史上最強クラスの台風上陸と、確実に気象の変化は起きています。今回の台風で被害にあわれた地域の皆様にはお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

夏休み明けの8月27日(火)、生徒たちは、クラスメイトや担任と久しぶりに交流し、笑顔があふれていました。この日は全校生徒が集まる機会が二度ありましたが、全校集会では、体育館に校歌を響かせ、顔を上げ人の話をしっかり聞き、また、総合防災訓練では、けじめのついた行動が随所に見られました。取組姿勢・態度ともに、とても素晴らしかったです。これからの学習や学校行事、部活動もこの調子で頑張ってくれることを期待しています。



さて、前期末試験を終え、いよいよ文化祭・合唱コンクールに向け、本格的な準備・練習が始まります。合唱コンクールの取組は、一人一人の歌唱力や目標、意欲に違いがある中で、みんなの気持ちを同じ方向にまとめていかなければならないので、簡単ではありません。それどころか、かなり困難なことだと思います。

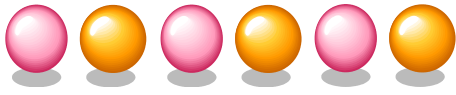
しかし、それらの取組みの中で生徒一人一人が成長し、学級が成長していきます。ぜひ、次のことを念頭にがんばってほしいと思います。

- ①自分ががんばる
- ②仲間とがんばる
- ③けじめのある行動



まずは自分ができる限りの努力をすることです。そして、仲間と協力し合ってがんばることです。仲間とがんばることで $1+1=2$ 以上の成果をもたらしてくれるでしょう。また、けじめのある行動をすることで集中力をアップさせ、結果として集団のまとまりがついてきます。

様々な行事や日々の取組の中で学年や学級が同じ目標や目的を持った『チーム』として、大いに躍動できるよう、これからも保護者・地域の皆さまのますますのご支援・ご協力をお願いいたします。



よこはま子ども

国際平和スピーチコンテスト

「子どもたちを救うために」

大川 美羽

今、発展途上国で起きている、飢餓問題。皆さんは、その事について知っていますか。

アフリカのタンザニアでは、一日に約四～五万人の人々が飢餓によって命を落としています。しかも、その7割は子どもだということです。なぜ子どもたちは命を落としてしまうのでしょうか。

発展途上国では、食料がなく、とても苦しい生活を送っている人たちがたくさんいます。彼らは、何か悪いことをしたのでしょうか。私は、何もしていないと思います。むしろ彼らは被害者だと思いませんか。そもそも、彼らの国が今発展の途中なのは、かつてヨーロッパの国々の植民地だったからであったり、奴隷として多くの人々が母国から離れなければならなくなったからです。

そんな彼らを救うために、私たちにできることは何でしょう。

日本は食料自給率が低く、輸入に頼ることで人々の生活が成り立っています。その反面、日本は先進国の中でも一番食料廃棄量が多い国と言われ、その量を分かりやすく表すと、一秒間におにぎりが八千六百個捨てられていることとなります。つまり、日本は外国から大量に食料を輸入し、大量に捨てている国なのです。

そこで、私には、前に見たニュースで印象に残っているものを思い出しました。それは、国連が定めた「世界食料デー」に先立ち、おにぎりにまつわる写真をSNSに投稿するというものでした。写真一枚につき、アフリカ、アジアの子どもたちに給食五食分が寄付されるという取り組みです。私たちの生活に大きく関わっているSNSを通じて、中学生の私たちでも、子どもたちを救えるのです。

私たちは、偶然日本に生まれたため、大きな不自由を感じずに暮らしています。ですが、それは世界に誰もがというわけではありません。今、発展途上国で飢餓に苦しむ子供たちは五億人以上。彼らを救い、世界中の誰もが不自由なく、楽しく暮らしていくためには、私たち一人ひとりが意識を変えていくことが大切なのです。

教育相談

8月27日(火)からの3日間、担任と生徒による面談(教育相談)が放課後の時間などに行われました。夏休み中の出来事(部活動・勉強・夏休みの思い出)を中心に、生徒たちは色々なことを話してくれました。3年生は、高校見学に行った生徒も多く、いよいよ中学校卒業後の進路を本格的に考える時期を迎えたようです。また、1、2年生においては、部活動のことや学習のことで目標や悩みを話してくれる生徒がいました。担任は生徒一人ひとりの気持ちを受け止め、温かい励ましやアドバイスを送っていました。

本校では、年2回(5月と9月)担任と生徒による面談を行っています。じっくり話をする中で、担任は生徒の「心の声」をキャッチできるようにしています。また、日頃から生徒の様子(授業、休み時間、部活動など)を職員間で共有し、生徒の「心のサイン」をくみ取れるように努めています。

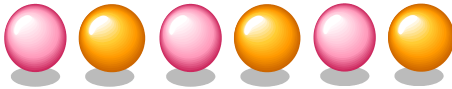
(生徒指導専任 籠田玄太)

情報教育

8月30日(金)1校時、LINE株式会社から講師を派遣していただき、「SNSの使い方」について学習しました。今回の対象は1年生です。自分と相手との違いを意識し、上手なコミュニケーションについて自ら考えることをしました。自分は大丈夫と思って送った言葉が実際には相手を傷つけている。自分自身は大丈夫だと思って投稿した写真は、相手にとって、また自分にとっても危険な(投稿してはいけない)写真だった。相手の表情を見ず、相手と文面、絵文字、写真などだけでやり取りをするSNSではトラブルはより起こりやすいことを学びました。教えていただいたことを生徒たちが意識して、より良く便利にSNSを利用してくれることを願っています。

(生徒指導専任 籠田玄太)

食育講演会



9月11日(水)、2年生の生徒全員を対象に、食育講演会が行われました。横浜マリノスの望月選(もちづきえらぶ)さんを講師としてお招きし、「将来に向かっての食習慣づくり」というテーマで、お話をいただきました。

講演会は「みんなは長生きしたいですか?」という望月さんの問いかけからスタートし、生徒たちは元気よく手を挙げました。「みんな長生きしたいですね。私のおじいさんは2年前に107歳で亡くなりましたが、亡くなる直前まで足腰も丈夫でとっても元気でした。なぜか」と栄養バランスのとれた食事をしっかりして、運動もしていた

からです。毎日、小さいことを積み重ねて生活していくと、何歳になっても健康な体でいられるのです。」

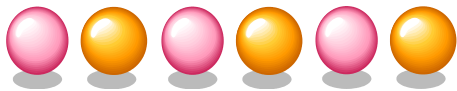
プロサッカー選手のコーチの経験を活かしたお話は実践的で生徒たちも真剣な眼差しで耳を傾けていました。お話では、勉強やスポーツで最高のパフォーマンスを発揮するためには栄養バランスのとれた食事が大切であること。特に、1日のエネルギー源となる朝食は大切なので、主食だけは食べるようにするとよいこと。食事の質と量、時間帯も大切であること。適切な水分補給の仕方や、ストレッチの目的と種類についてなどをわかりやすく教えてくださいました。生徒たちの感想の一部をご紹介します。

- ・僕は朝食を結構食べていると思っていましたが、もっとたくさんの量を食べないとエネルギー切れになると知りました。これからは副菜やフルーツも食べるようにしたいです。
- ・改めて朝食の大切さを知りました。私は朝食を食べないことがありましたが、授業に集中して取り組むために、おにぎり1個だけでもきちんと食べるように心がけたいと思いました。
- ・朝食は起きてから30分以上経ってから食べた方がよいということを知りました。朝起きてすぐは食欲がなかったので、これからは30分前に起きて、体を動かしておこうと思いました。
- ・ストレッチをした時に望月さんがまだまだ足りないとおっしゃっていて、びっくりしました。これからはお風呂上りにもストレッチをして、ケガをしないようにしたいです。
- ・部活が終わった後はストレッチをしないのでこれからはじっくりとしてみようと思います。
- ・運動の後にはクエン酸を摂った方がよいということは知らなかったです。これから、自分の健康な体づくりに生かしたいです。
- ・「食べる」ということは健康な体を作ることにつながるのだと思いました。今まで何も考えずに食事をしていましたが、これからは食事内容を考えてもっと大切に食べようと思いました。
- ・「睡眠もトレーニング」という言葉が心に残りました。睡眠時間が今まで短かったので、8時間以上は寝たいと思います。



望月さんに教えていただいたことを、部活動やこれからの生活に活かしていきたいという声が多く聞かれました。中学生は体を作る(骨と筋肉を太く丈夫にする)ラストスパートに向かう時期です。中学生の今のうちから、色々な食材を食べ、規則正しい生活習慣を身につけて、健康な体を作っていきましょう。

(養護教諭 蓮見有里)



全国・関東大会出場 陸上競技部

7月に神奈川県大会が行われ、個人では3年・蕨唯香さんが100mハードルで全国・関東大会に出場、団体では女子共通リレーが関東大会出場を決めました。関東大会は、8月8日・9日に山梨県の中銀スタジアムで行われました。リレーは、惜しくも決勝に届かず、少し悔しい結果に終わりましたが、自分たちの力を発揮したレースができました。女子共通ハードルでは蕨さんが見事6位に入賞。また、8月21日から24日に大阪府のヤンマースタジアム長居で行われた全国大会でも、精一杯のレースをすることができました。陸上競技は1回のミスで、上の大会に進むことができない厳しい競技です。1年生の頃から目標にしていた夢舞台への出場は、忘れることのできない思い出になったと思います。たくさんの方々の応援で、子どもたちは大舞台に怯むことなく、澁刺と走り、素晴らしい経験をすることができました。本当にありがとうございました。(陸上競技部顧問 井上 大之)

陸上競技部部长 佐藤 未唯

夢だった関東大会に出場し、とても緊張しました。実力を発揮することができず、納得のいく結果にはできませんでしたが、貴重な経験になりました。ここまでやってこられたのは、応援し、支えてくださった方々のおかげです。そして、一緒に頑張ってきたリレーメンバーには感謝でいっぱいです。

蕨 唯香

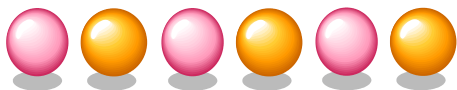
関東大会は、リレーを走った中で1番大きな大会で、初めて感じる雰囲気緊張しましたが、今までやってきたことを信じて走ることができました。全国大会では、納得するような結果にはできませんでしたが、支えてくれた人たちへの感謝の気持ちをもって走ることができました。思い出に残る夏になりました。

渡邊 萌絵

関東大会に出場している選手やチームは、アップのドリルも一つひとつが丁寧で、かけ声も元気がよく、学ぶことが多くありました。試合はとても緊張しましたが、仲間を信じて走ることができました。たくさんの方々の応援ありがとうございました。

水谷 朱莉

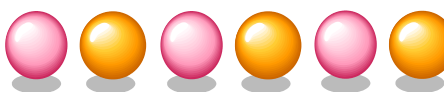
市大会や県大会とは違う緊張感がありました。周りの選手も速かったのですが、今までで1番のバトンパスができました。全国大会では、先輩のサポートとして付き添いをさせてもらいました。全国はレベルが高く、とても速かったのですが、来年は自分も必ず出場するという気持ちを強くもつことができました。本当にありがとうございました。



放送コンテスト 全国大会出場

私は、自分の声で何かを伝えるということが好きです。

私が参加した朗読部門では、指定された本の中から1冊を選びその中でも気に入った数ページを2分程度で朗読しました。今回私が選んだ作品は、宮下奈緒作の「よろこびの歌」です。私が特に苦労したことは、登場人物がたくさんいるので、一人ひとり声を変えて朗読しなければいけないことです。そのために、間の取り方や読む速さなど、どうしたら複数の人物のように表現できるのか、どうしたら聞いている人の耳に残るような朗読ができるのかを考えながら細かく練習しました。録音をするときは緊張したけれど自分の中で一番よい朗読ができました。今回コンテストに参加したことは、これからの自分につながる良い経験になり、自分の自信にもなりました。この経験をこれからの学校生活にさらに活かしていけたらいいなと思いました。(3年 串崎菜々美)



将棋部

将棋部は、現在、2年生10名、1年生6名で活動しています。8月の神奈川県小中学校将棋大会では、この大会で引退した唯一の三年生の工藤君も活躍したおかげで中級戦の部で優勝しました。メンバーは吉田君、瀬野君の計3人で、吉田君は全勝賞も取りました。

普段は、週3日の活動で、2時間前後の活動時間です。和やかな雰囲気で活動していますが、もう少しまじめにやってほしいと思う場面もあります。あいさつがしっかりできることや活動中の集中力のアップを目標に活動の質の向上を目指しています。(将棋部顧問 吉崎光秀)